

KDDI Remote Sync by moconavi

管理者用マニュアル

- インストール編 -

Version 1.51

2014年10月1日

KDDI 株式会社

目次

1	ソフトウェアのダウンロード	2
2	OpenVPN クライアントインストール	4
3	OpenVPN 設定.....	12
4	OpenVPN の起動と接続	13
5	OpenVPN の切断.....	16
6	OpenVPN の自動起動設定.....	17
7	アダプタ稼働設定.....	21
8	アダプタ起動設定.....	27
9	Windows ファイアウォール設定.....	28
10	コネクタ稼働設定	32
11	トラブルシューティング	44

1 ソフトウェアのダウンロード

KDDI Remote Sync by moconavi のソフトウェアを以下のサイト（以下では、管理者 Web サイトと称します）よりダウンロードしてください。

- ・ 2013 年 1 月 31 日以前に契約された方

URL: https://grw-admin.moconavi.biz/krs_web/Company.do

- ・ 2013 年 2 月 1 日以降に契約された方（旧料金プランから新料金プランに移行された方含む）

URL: https://krs-admin.kddi.com/krs_web/Company.do

- ① 開通通知書に記載のアカウント情報（契約番号、管理者用 ID、パスワード）を元に、管理者 Web サイトへログインしてください。



▶ 管理者一覧
▶ メモ
▶ パスワード
▶ 認証設定
▶ パスワードポリシー
▶ アプリ動作設定
▶ ファイル変換設定
▶ サービス設定雛形
▶ アダプタ設定
▶ ダウンロード
▶ ユーザー一覧
▶ 一括登録
▶ 利用状況
▶ メールリンク設定
▶ 機能抑制設定
▶ 画面キャプチャ履歴
▶ ブランディング
▶ ログアウト

ダウンロード

内容	バージョン	公開日	備考	ダウンロード
マニュアル一式	-	2012/10/12	zip:35.8MB	Download
中継PCソフト許諾規約	-	2011/11/21	pdf:122KB	Download
中継PCソフト一式(32bit)	1.9.0	2013/6/21	zip:90.0MB	Download
中継PCソフト一式(64bit)	1.9.0	2013/6/21	zip:82.5MB	Download
OpenVPN鍵ファイル	-	2013/6/21	zip:2.9KB	Download
Adapterポート番号	-	2013/6/21	txt	Download

②左側の「ダウンロード」ボタンをクリックし、表示された右側の画面より、必要なソフトウェアをダウンロードしてください。

ダウンロード可能ファイル一覧

マニュアル一式	管理者およびエンドユーザ用のマニュアル一式
中継 PC ソフト許諾規約	中継ソフトウェアをご利用する上での規約
中継 PC ソフト一式 (32bit)	32bit マシンをご利用の方はこちらをダウンロード
中継 PC ソフト一式 (64bit)	64bit マシンをご利用の方はこちらをダウンロード
OpenVPN 鍵ファイル	中継 P C インストール時に必要な鍵ファイル
Adapter ポート番号	中継 P C インストール時に必要なポート番号

中継 P C ソフト一式 (32bit) をダウンロードし解凍した場合、以下のファイルが展開されます。

以降、便宜のため、当フォルダを、「ソフトウェアトップフォルダ」と呼びます。

ExchangeConnector
KDDI Remote Sync
moconaviBrW
OpenVPN_conf
jdk-6u17-windows-i586.exe
openvpn-2.1.1-install.exe



以降のインストール作業は、ローカルコンピュータの管理者権限を有するユーザで行ってください。

2 OpenVPN クライアントインストール

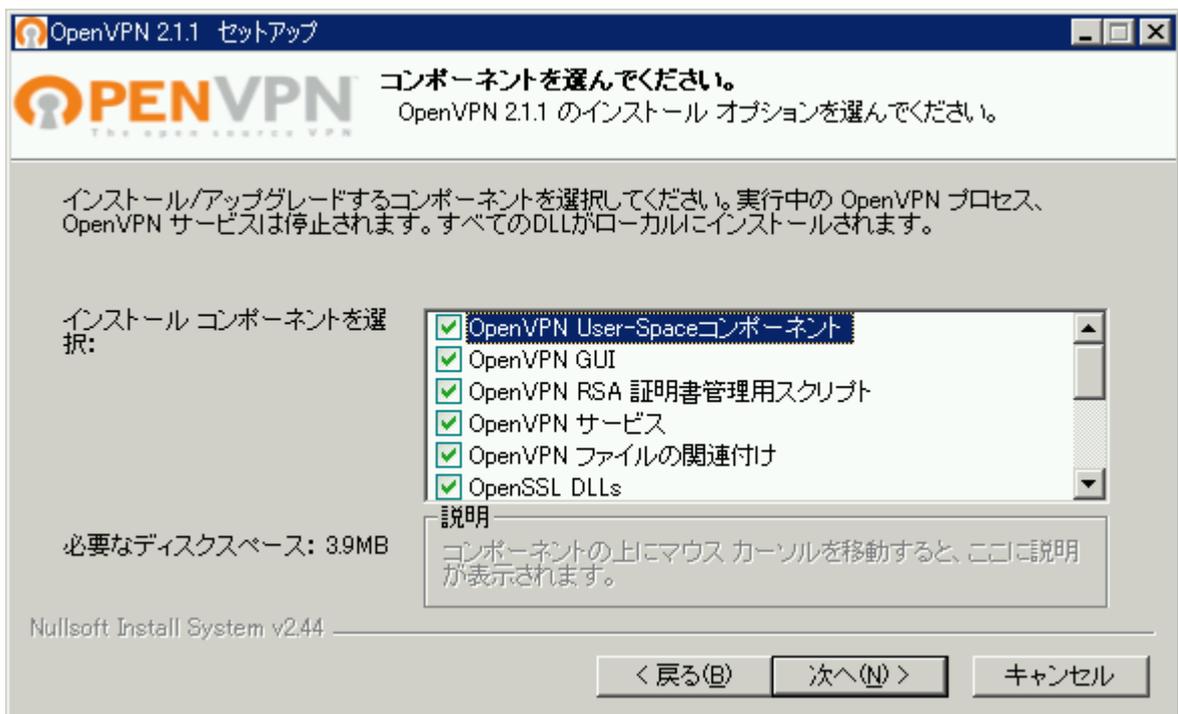
- ①ソフトウェアトップフォルダ中の openvpn-2.1.1-install.exe (OpenVPN クライアントインストーラ) をダブルクリックしてインストールを開始します。



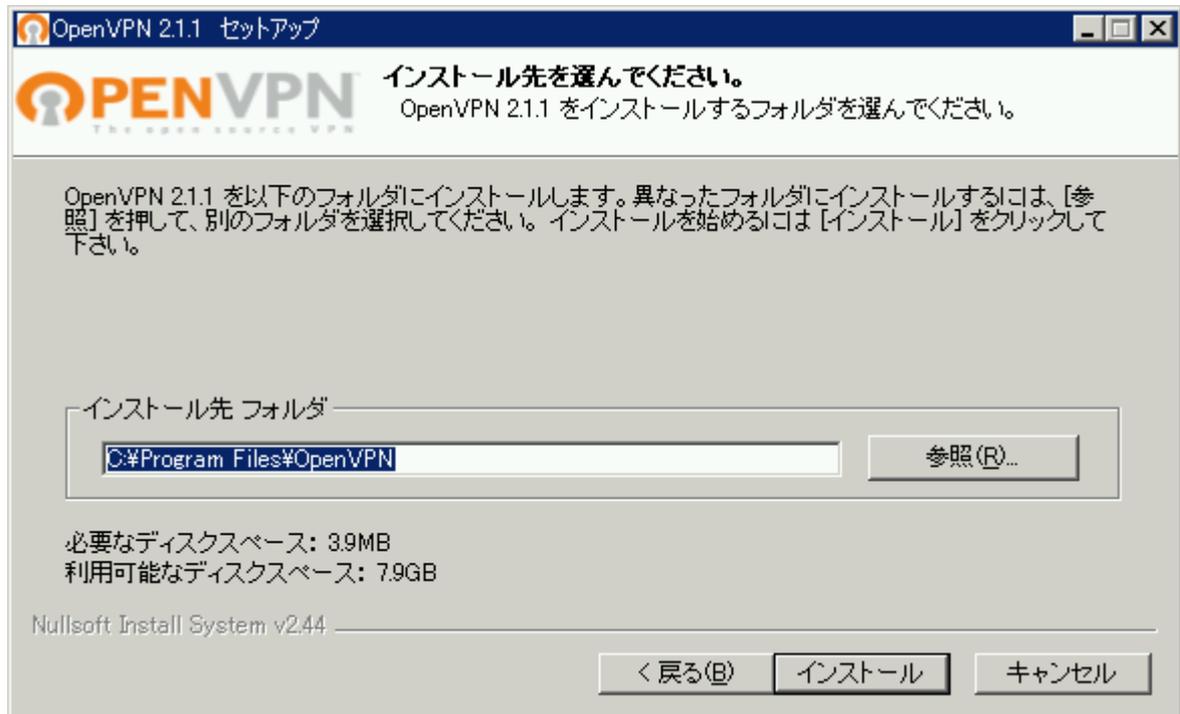
②ライセンス同意画面に遷移しますので「同意する」をクリックします。



③インストールコンポーネント選択画面に遷移しますので、そのまま「次へ」をクリックします。



④インストールフォルダ設定画面に遷移しますので、「インストール」をクリックします。

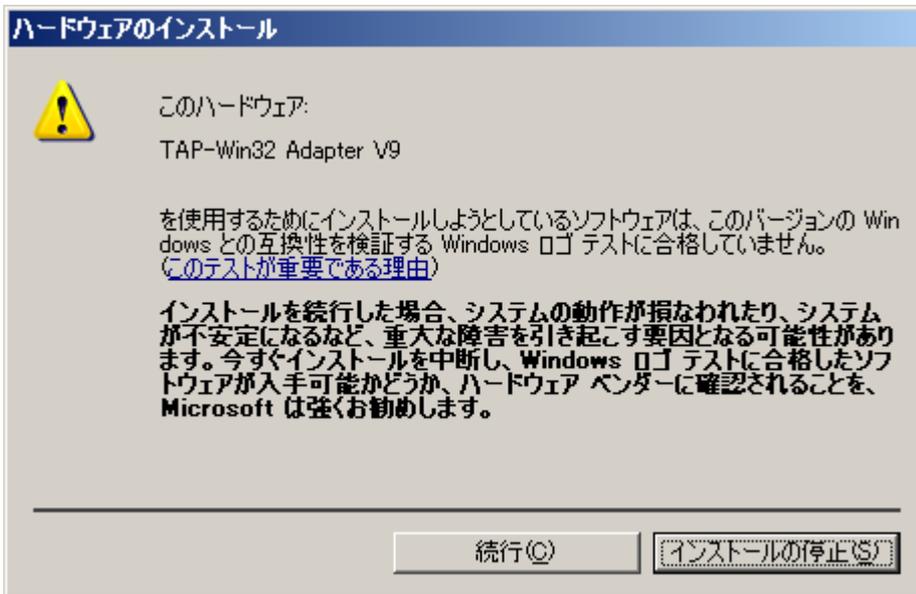


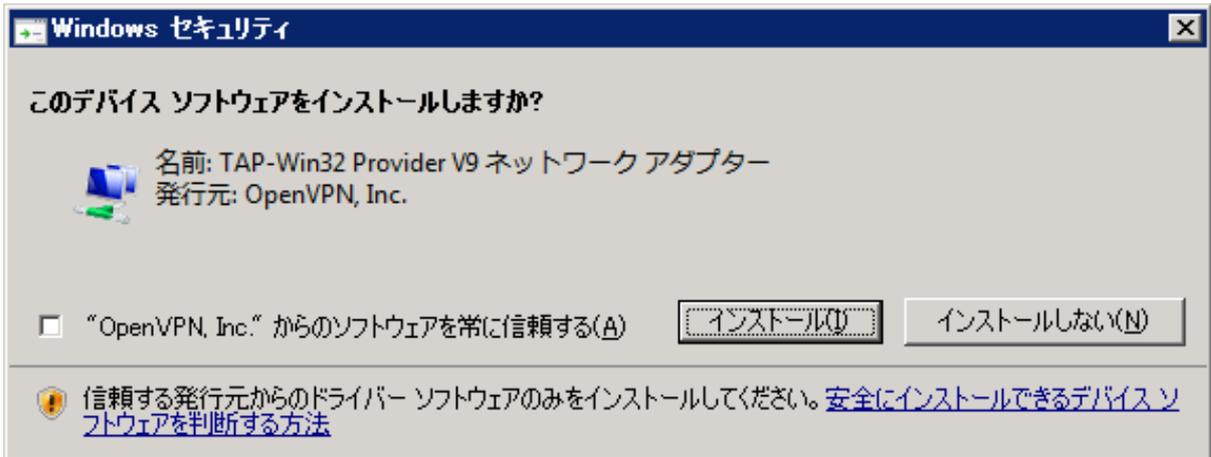
⑤インストールが開始されます。





OS によっては次のようなダイアログが表示されることがありますが、「続行」あるいは「インストール」をクリックして下さい。

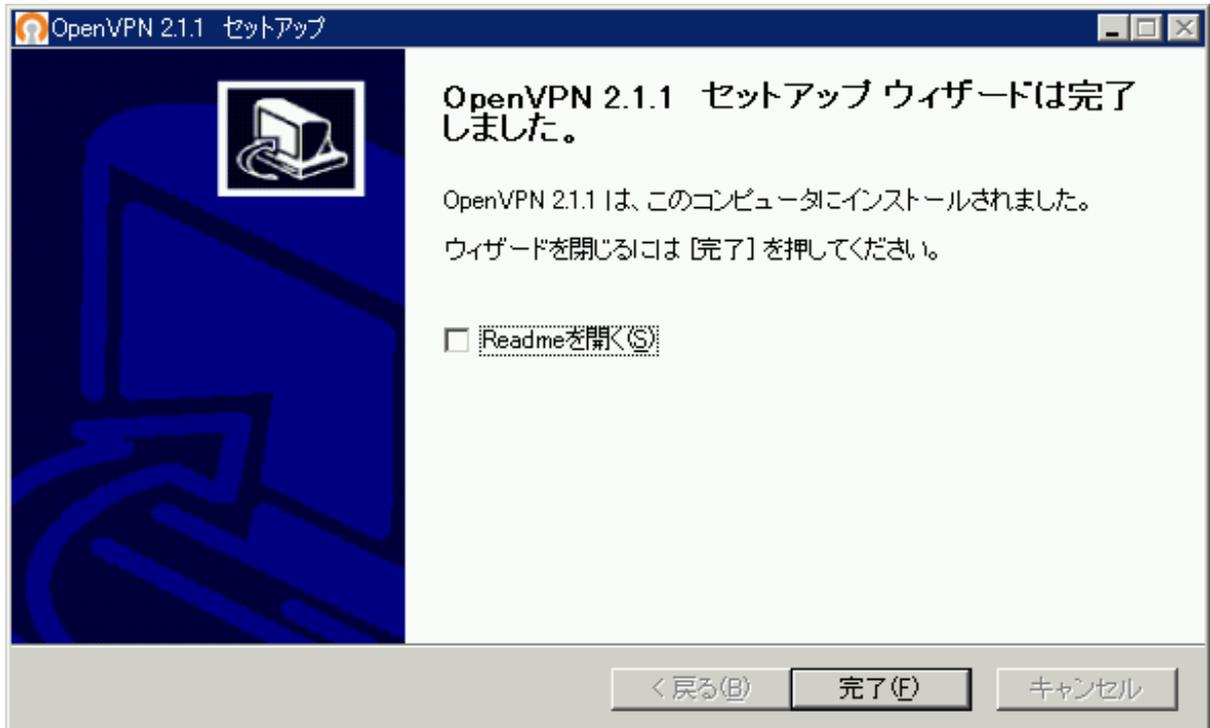




⑥インストールが完了すると次の画面に遷移しますので「次へ」をクリックします。



⑦「Readmeを開く」のチェックを外して「完了」をクリックします。



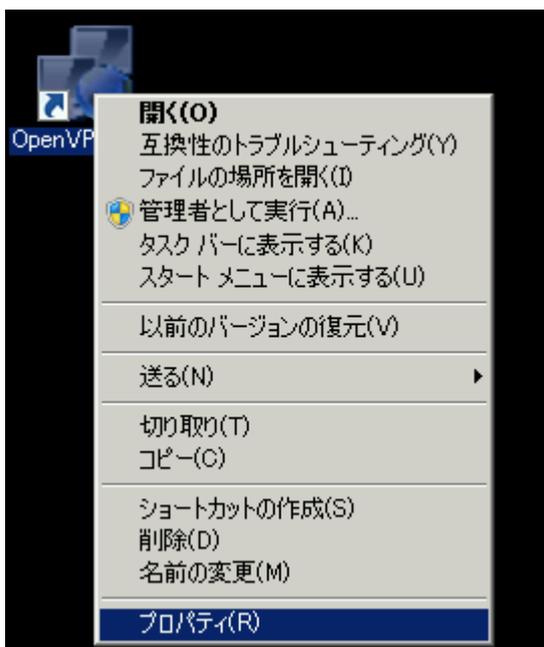
⑧デスクトップに「OpenVPN GUI」のショートカットが作成されたことを確認してください。



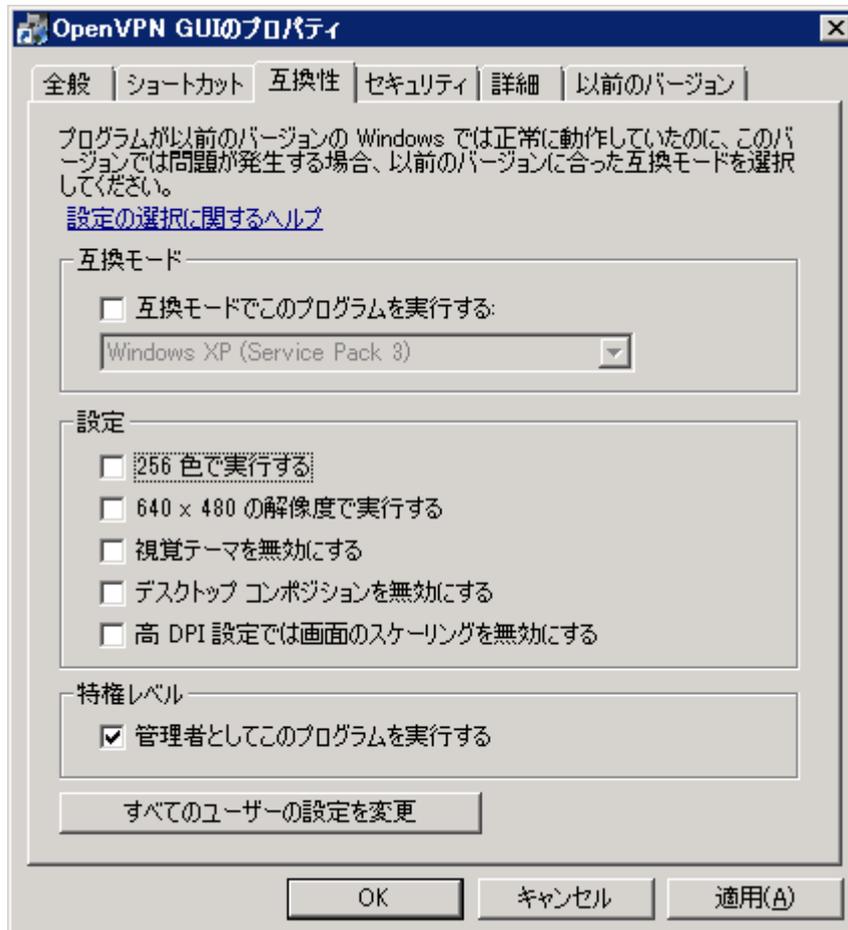
■ Windows7/Windows Server 2008 R2 の場合

OpenVPN GUI を右クリックしてプロパティを選択します。画面は Windows Server 2008 R2

のものですが、Windows7 も同様の操作になります。



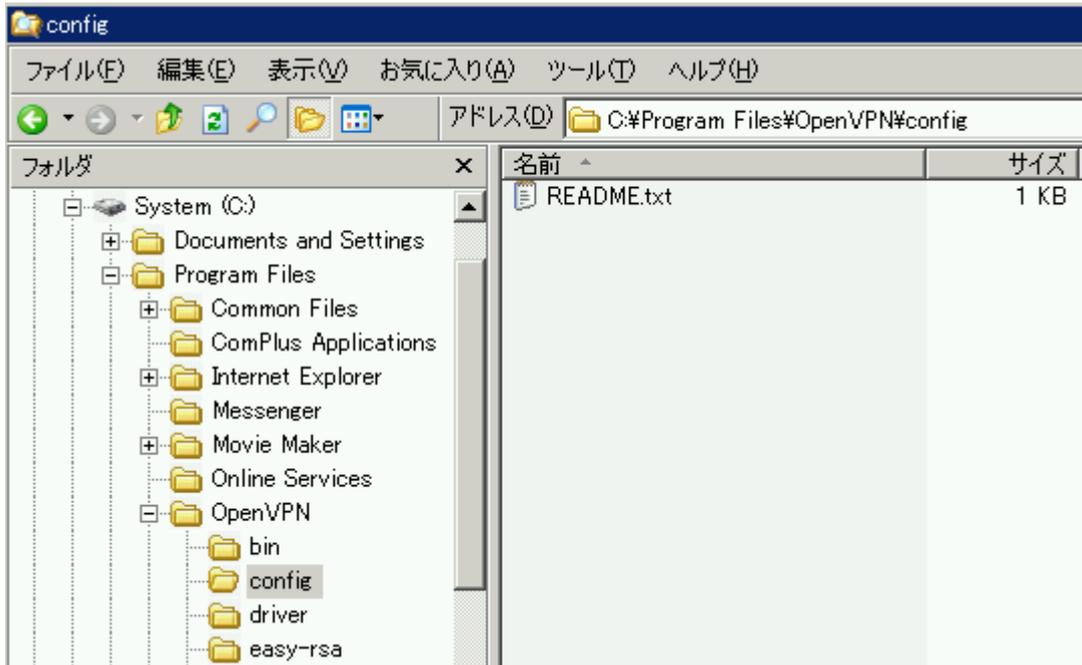
互換性タブを選択し、特権レベル欄の「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを付けて OK をクリックします。



3 OpenVPN 設定

①エクスプローラで OpenVPN インストールフォルダ配下の config フォルダに移動します。

(デフォルトでは C:\Program Files\OpenVPN\config となります)



②ソフトウェアトップフォルダ中の OpenVPN_conf フォルダ以下の「ca.crt」と「client.ovpn」を、config フォルダにコピーします。

③管理者 Web サイトより「OpenVPN 鍵ファイル」をダウンロードし、解凍してください。

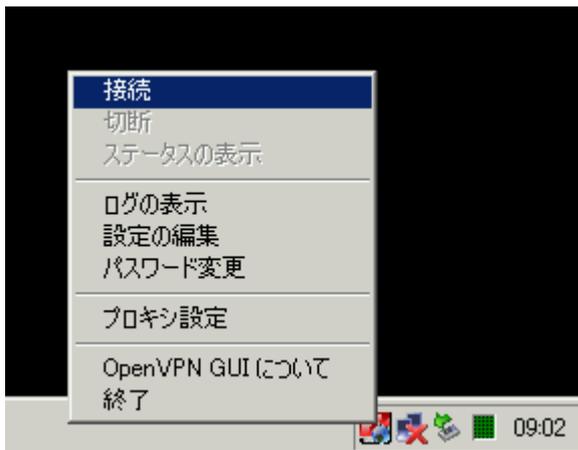
④「OpenVPN 鍵ファイル」中の「client.crt」と「client.key」を config フォルダの中にコピーしてください。

4 OpenVPN の起動と接続

- ① デスクトップ上の OpenVPN ショートカットをダブルクリックすると、タスクトレイに OpenVPN のアイコンが出現します。



- ② OpenVPN アイコンを右クリックして「接続」を選択します。



③ダイアログが表示されます。



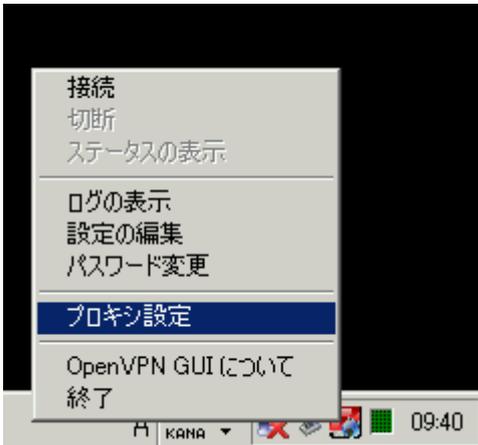
④接続が完了するとダイアログが消え、タスクトレイの OpenVPN アイコンが青色に変化します。

マウスカーソルを OpenVPN アイコンに当てると次のように接続状況が表示されます。



【 Proxy 経由での接続の場合 】

①OpenVPN アイコンを右クリックして「プロキシ設定」を選択します。



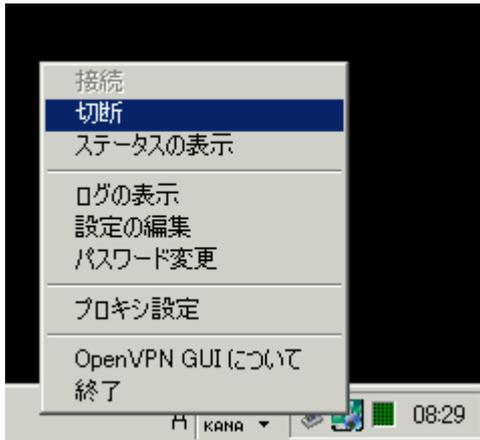
②次のいずれかを実施して OK をクリックします。下図は手動設定の場合の例です。

- ・「手動設定」にチェックを付け Proxy サーバの IP ならびにポート番号を設定
- ・「Internet Explorer の設定を使用(手動設定)」



5 OpenVPN の切断

タスクトレイ内の OpenVPN アイコンを右クリックして「切断」を選択することにより OpenVPN が切断されます。



6 OpenVPN の自動起動設定

OpenVPN は Windows サービスとして登録されていますので、次の手順で自動起動設定を行うことにより、OS 起動時に自動接続を行うことが可能です。

①Proxy サーバ経由で接続する場合には、OpenVPN インストールフォルダ配下の

conf¥client.ovpn（デフォルトは C:¥Program Files¥OpenVPN¥conf¥client.ovpn）をメモ帳等で開き、次の変更を行います。

```
# Proxy 設定  
  
#http-proxy 1.2.3.4 8080 auth.txt basic  
  
#http-proxy 1.2.3.4 8080  
  
#http-proxy-retry
```

②ファイル最下部 http-proxy ならびに http-proxy-retry の行頭の#を削除します

③Proxy サーバとポート番号を正しいものに変更します

④ファイルを上書き保存します

次は変更後の例です。

```
# Proxy 設定

#http-proxy 1.2.3.4 8080 auth.txt basic

http-proxy 192.168.0.253 8080

http-proxy-retry
```

Proxy 接続時に認証が必要な場合は、最初の http-proxy 行を有効にします。

さらに、同一フォルダ内の auth.txt に認証用のユーザ名とパスワードを**平文**で記述します。

OpenVPN でサポートしている認証方式は Basic のみですので、ご注意ください。

```
# Proxy 設定
```

```
http-proxy 1.2.3.4 8080 auth.txt basic

#http-proxy 192.168.0.253 8080

http-proxy-retry
```

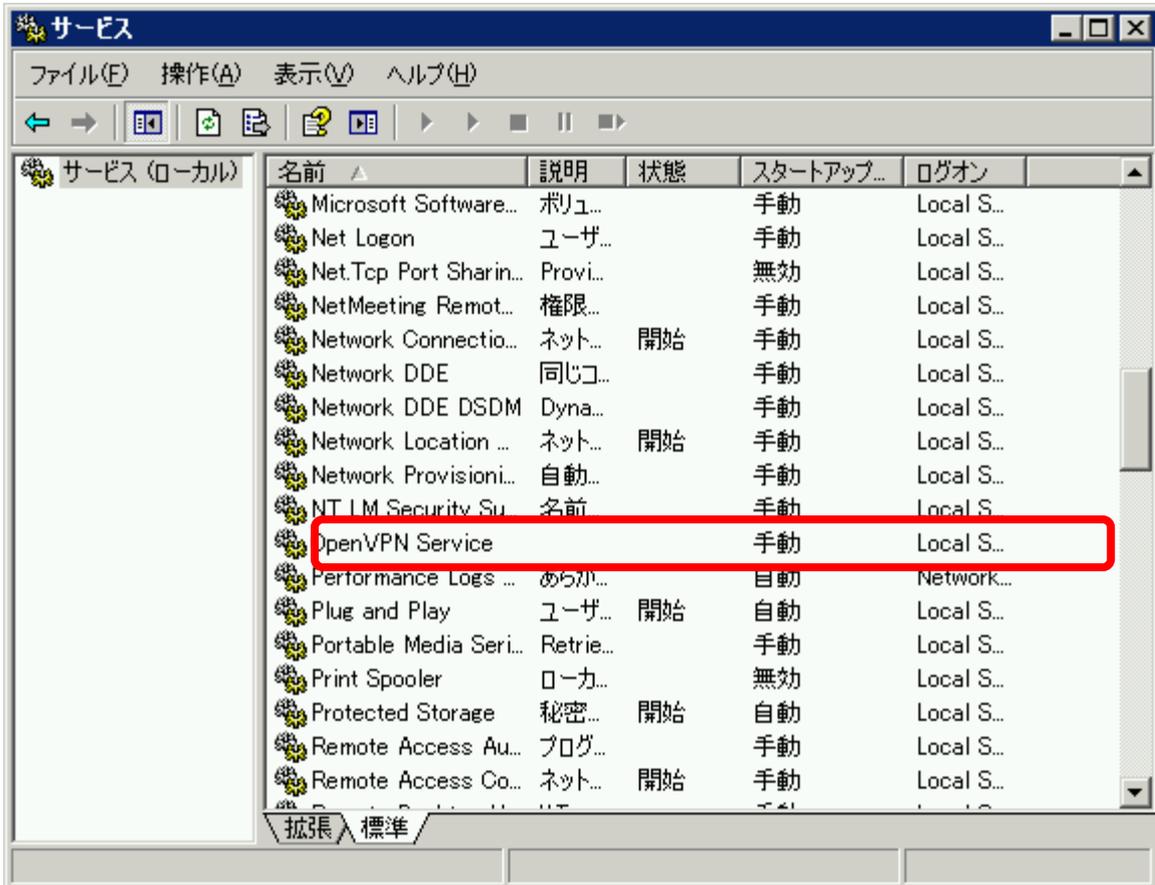
【auth.txt の例】

```
proxyuser

password
```

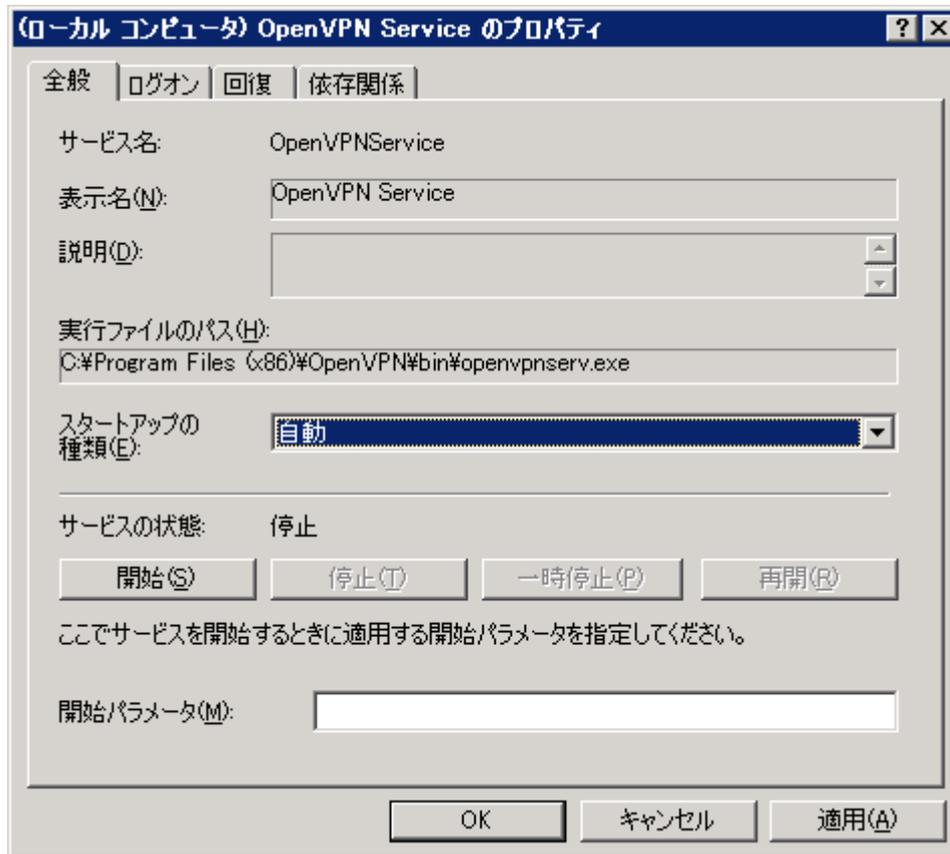
⑤次に、コントロールパネル→管理ツール→サービスにてサービス一覧を表示し、OpenVPN

Service をダブルクリックします。



⑥スタートアップの種類に「自動」を指定して「OK」をクリックします。

これにより、次回のシステム起動時より OpenVPN が自動接続されます。



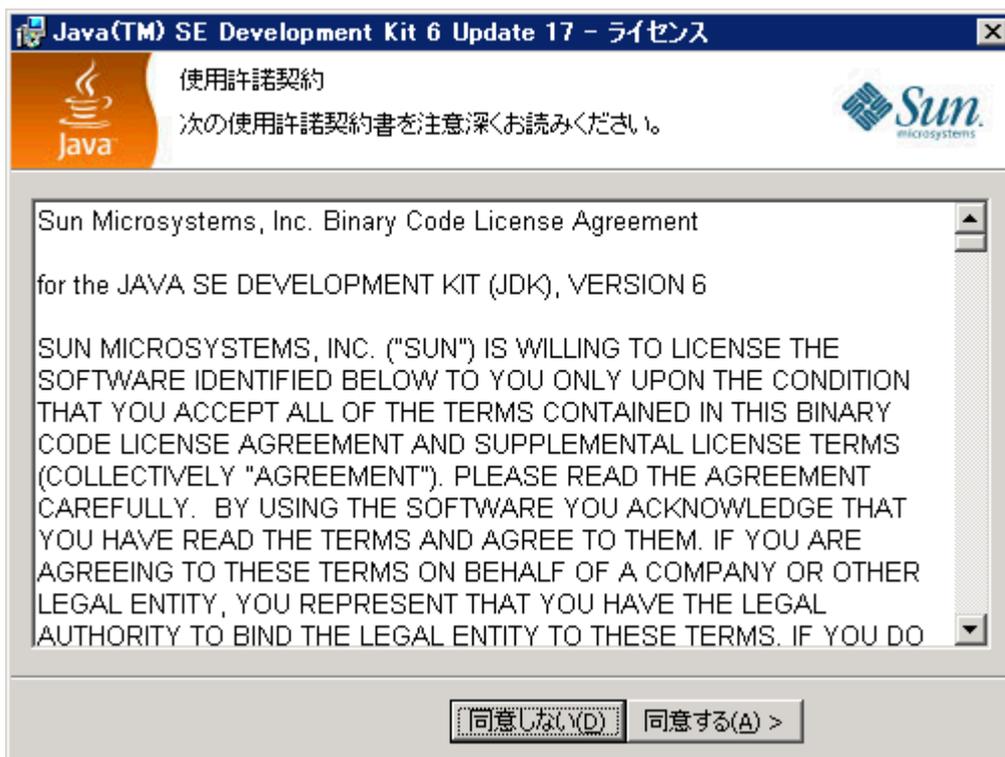
7 アダプタ稼動設定

次の手順によりアダプタの起動設定を行います。

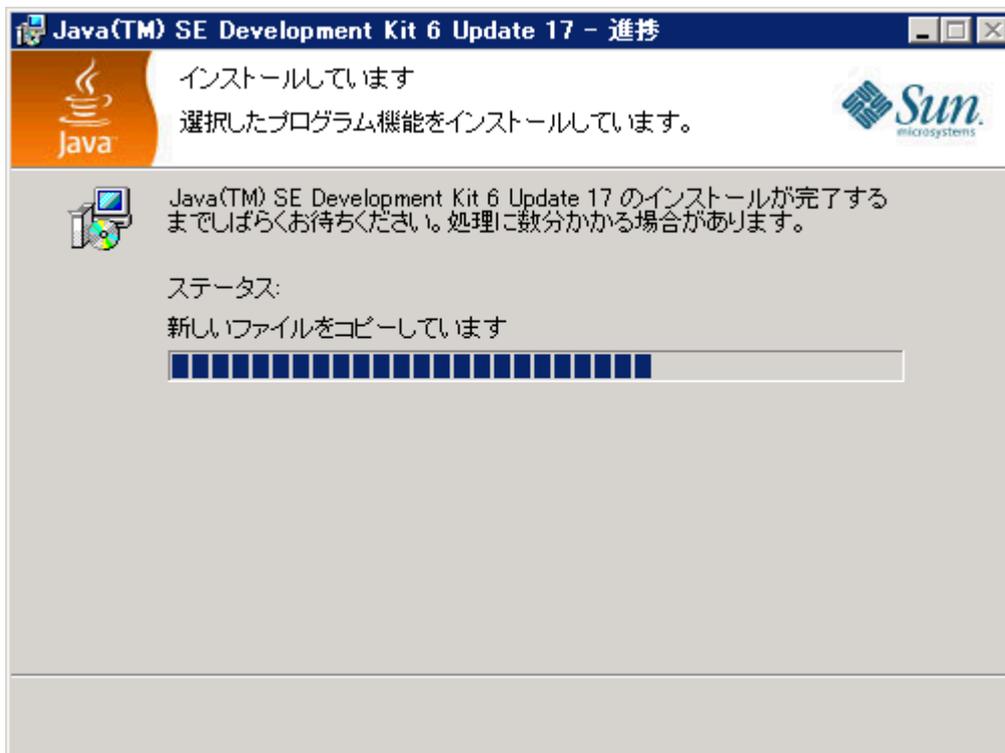
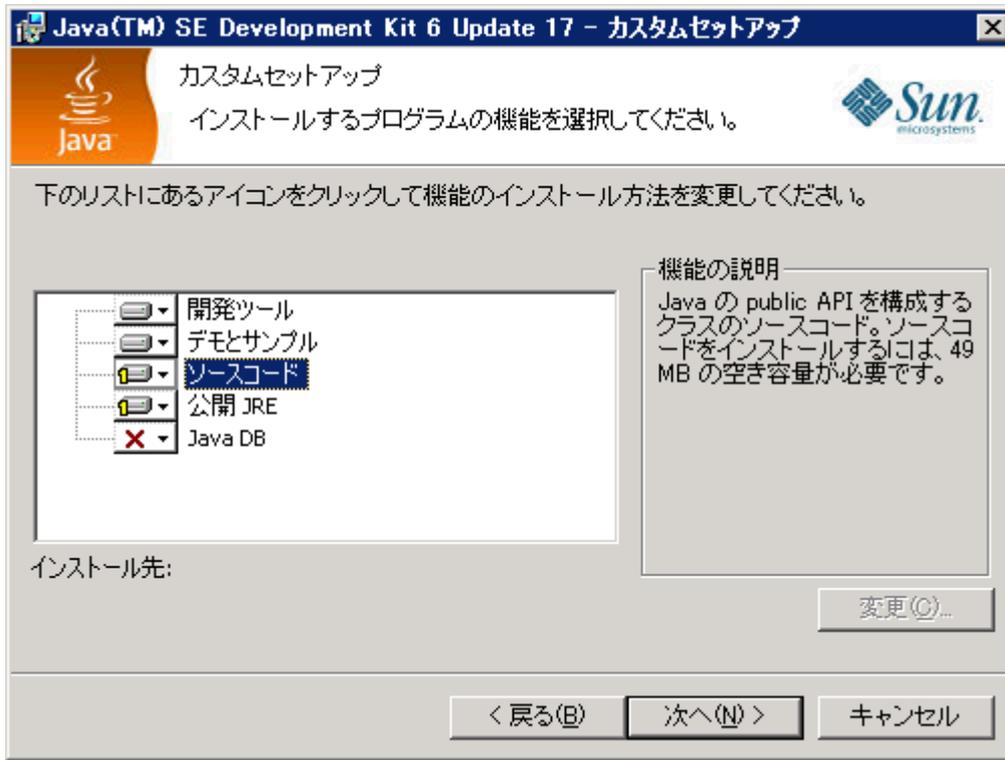
①JDK インストール

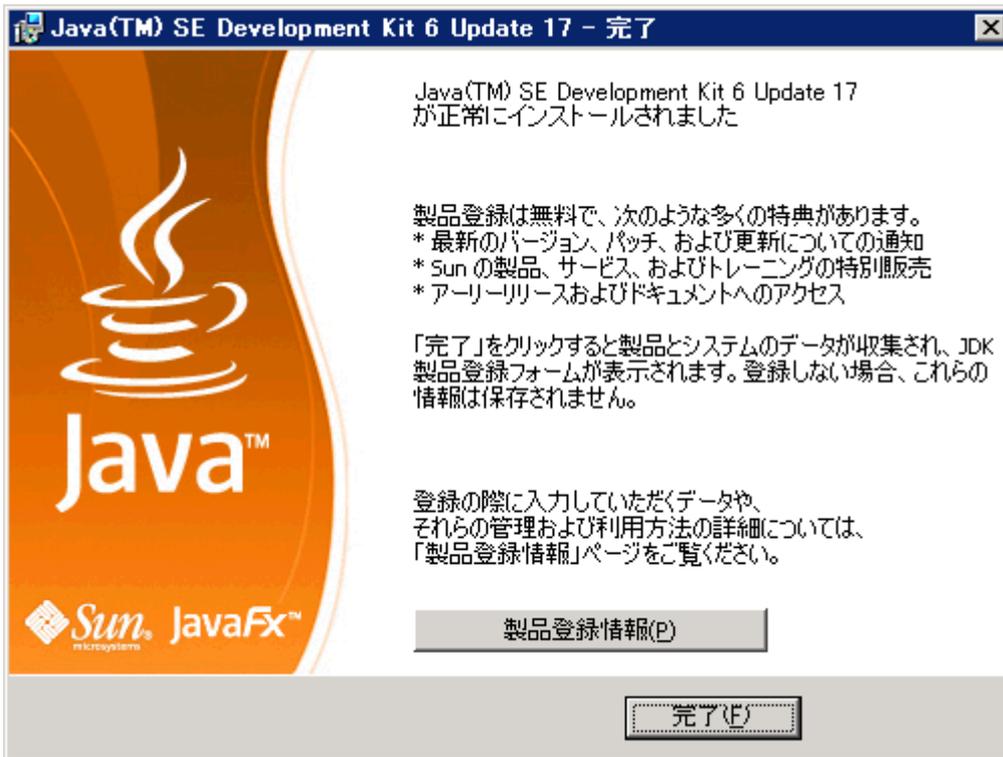
ご利用の OS のビット数に合わせて CD 内の jdk-6u17-windows-i586.exe (32bit の場合) あるいは jdk-6u17-windows-x64.exe (64bit の場合) をダブルクリックします

②使用許諾に同意します



③ソースコード・公開 JRE・Java DB を非選択として「次へ」をクリックします





④ファイルの配置

ソフトウェアトップフォルダ内の KDDI Remote Sync フォルダを任意の場所にコピーします。

以下では、C:¥Program Files¥KDDI Remote Sync にコピーしたものとして記述します。

⑤KDDI Remote Sync¥bin¥env.bat をメモ帳で編集します

④でコピーしたフォルダが C:¥Program Files¥KDDI Remote Sync 以外の場合は

APP_HOME ならびに GrW_BIN の値を変更します。

```
set APP_HOME=C:¥Program Files¥KDDI Remote Sync¥gateway¥WEB-INF
set GrW_BIN="C:¥Program Files¥KDDI Remote Sync¥bin"
```

⑥KDDI Remote Sync¥bin¥Run.bat をメモ帳で編集します

Run.bat の内容は次のとおりです。必要に応じて次の項目を編集します。

```
@echo off

set GrW_BIN="C:¥Program Files¥ KDDI Remote Sync ¥bin"

cd /d %GrW_BIN%

rem call POPAdapter.bat 40000 75
rem ping localhost -n 2 > nul
rem echo POPAdapter をポート 40000 で起動しました

rem call ExchangeAdapter.bat 40010 75
rem ping localhost -n 2 > nul
rem echo ExchangeAdapter をポート 40010 で起動しました

rem call NotesAdapter.bat 40020 75
rem ping localhost -n 2 > nul
rem echo NotesAdapter をポート 40020 で起動しました

rem call IMAPAdapter.bat 40030 75
rem ping localhost -n 2 > nul
rem echo IMAPAdapter をポート 40030 で起動しました

echo [
echo |           二 注意 二           |
echo |                               |
echo |   このウインドウは閉じないで下さい   |
echo |                               |
echo |_____]
```

⑦フォルダ名修正

ソフトウェアトップフォルダからコピーしたフォルダが C:¥Program Files¥ KDDI Remote

Sync 以外の場合は GrW_BIN の値を変更します。

8 アダプタ起動設定

ご利用のサービス（POP/Exchange/Notes/IMAP）に関する部分に対して次の編集を行います。

①アダプタ実行・ping 実行・echo の各行冒頭の rem を削除

ご利用しないサービスの行は rem を残したままにしてください。

②ポート番号を変更

ポート番号は、管理者 Web サイトの「Adapter ポート番号」よりダウンロードしてください。

次は POP をご利用の場合の変更例です。

```
call POPAdapter.bat 40000 75

ping localhost -n 2 > nul

echo POPAdapter をポート 40000 で起動しました
```

アダプタ起動

Windows7/Windows Server 2008 R2 の場合は、アダプタを起動する前に次項の Windows フ

アイアウォール設定を行ないます。

上記以外の OS の場合はエクスプローラから Run.bat をダブルクリックすることにより、アダプタが起動します。

アダプタのプロセス名は java.exe となります。

9 Windows ファイアウォール設定

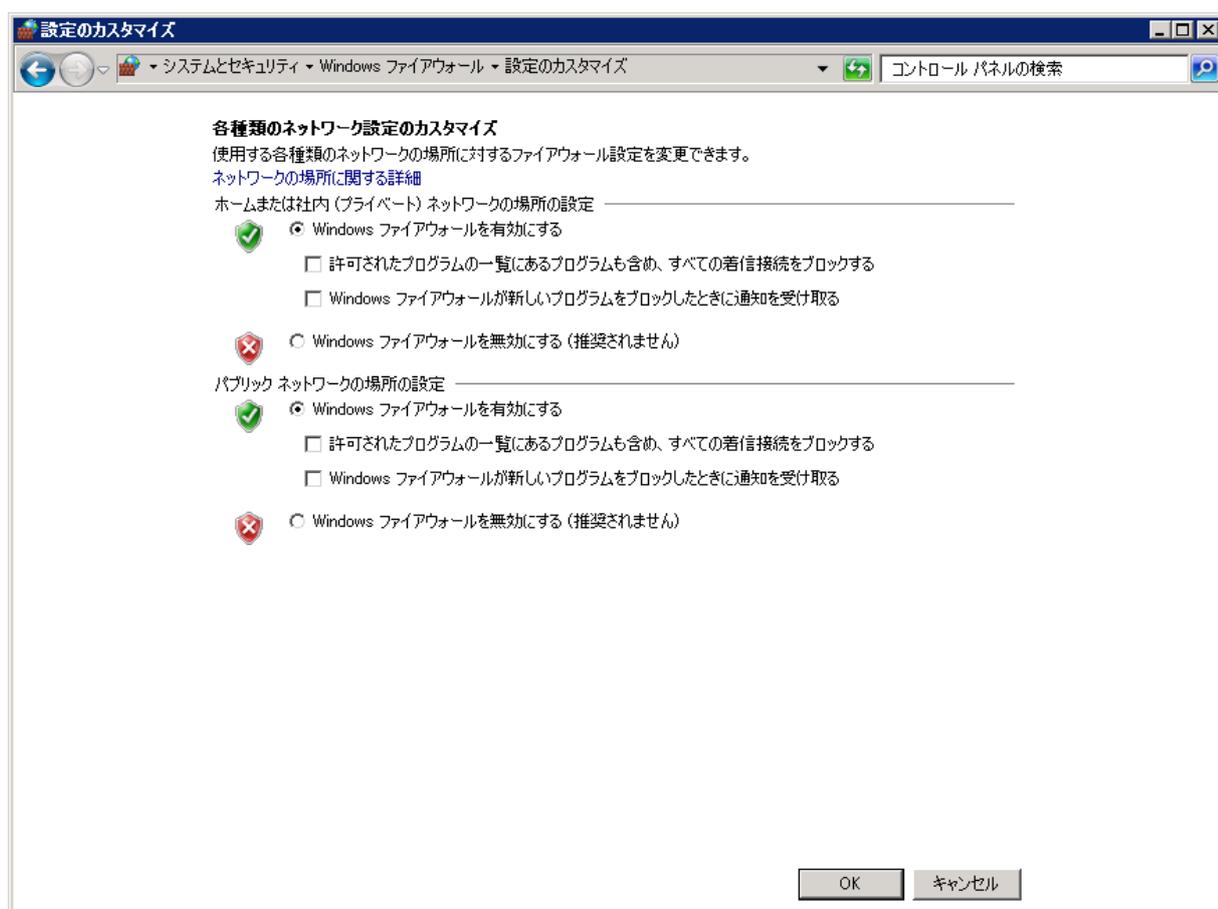
Windows7/Windows Server 2008 R2 の場合は Windows ファイアウォール設定を行いません。

以下の画面は Windows Server 2008 R2 のものですが、Windows7 も同様です。

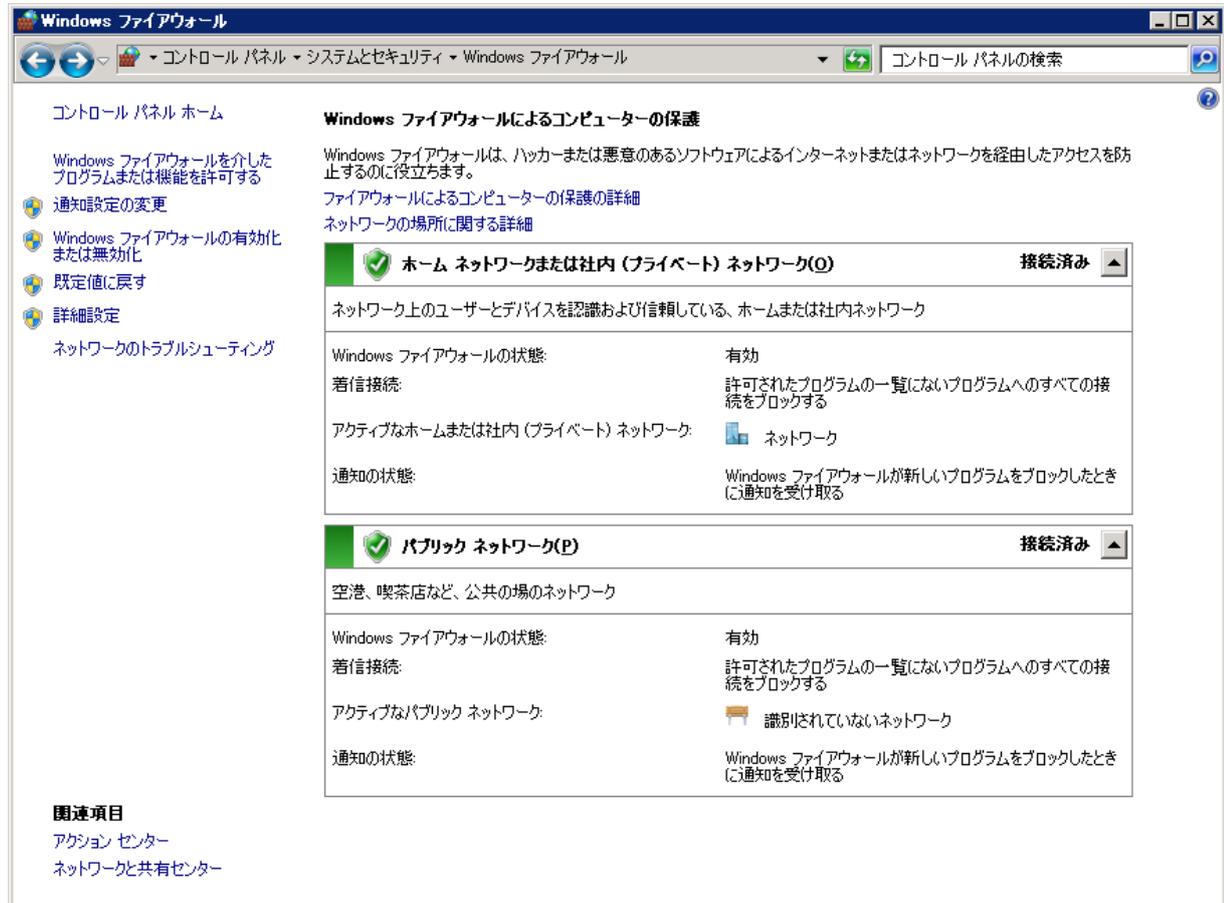
① ファイアウォール設定画面を開きます



- ② 通知設定の変更をクリックし、全てのネットワークの場所に対して「Windows ファイアウォールが新しいプログラムをブロックしたときに通知を受け取る」のチェックを付けて OK をクリックします。



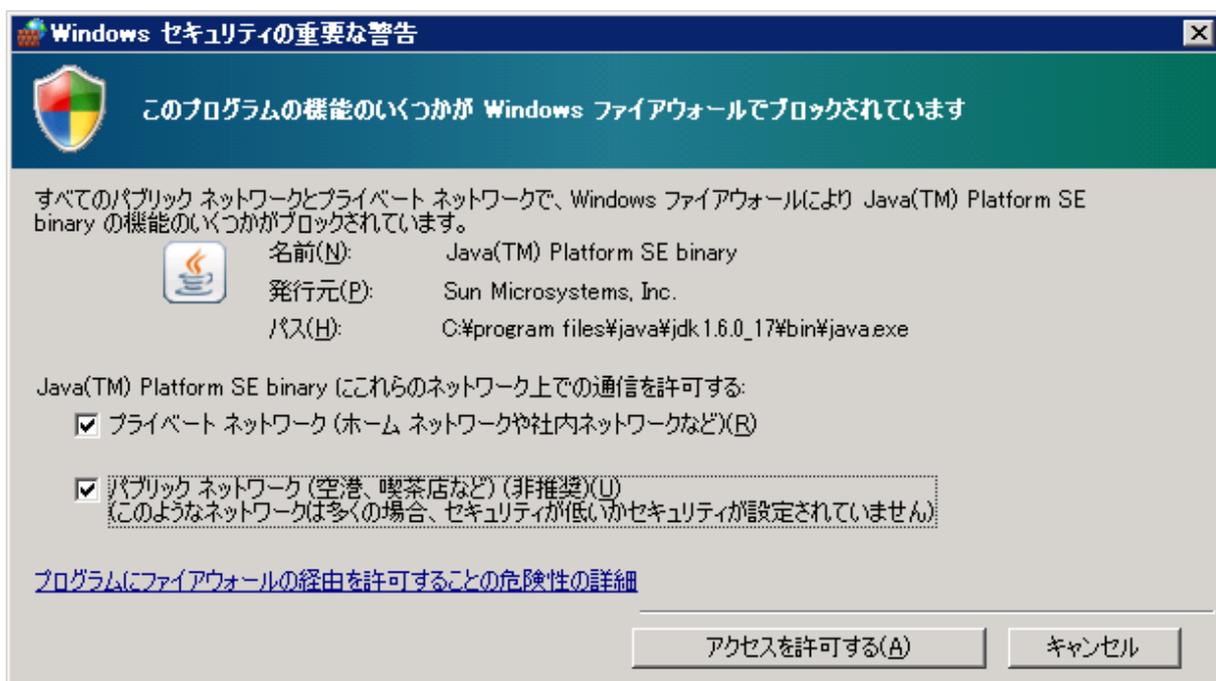
通知設定変更後の状態です。



③ アダプタを起動します

エクスプローラから Run.bat をダブルクリックしてアダプタを起動します。

ファイアウォールによるプログラムブロックのダイアログが表示されますので、全てのチェックボックスにチェックを付けて「アクセスを許可する」をクリックします。



④ 次に、Windows ファイアウォール設定画面を開いて詳細設定→受信の規則と進み、次

のように 2 個の Java(TM) Platform SE binary が有効となっていることを確認します。

✓ Java(TM) Platform SE binary	プライベート...	はい
✓ Java(TM) Platform SE binary	プライベート...	はい
✓ BranchCache コンテンツ取得 (HTTP-受信)	BranchCache - コンテンツ取得...	すべて いいえ

通知設定変更

通知設定を変更前の状態に戻します。

10 コネクタ稼動設定

Exchange サービスをご利用いただく場合には、「8. アダプタ稼動設定」の後に次の手順によりコネクタの設定を行います。コネクタの動作には、.NET Framework 2.0 SP2 ならびに .NET Framework 3.5.1 の両方が必要となりますので、必要に応じてインストールあるいは機能の有効化を行って下さい。言語パックは必須ではありません。

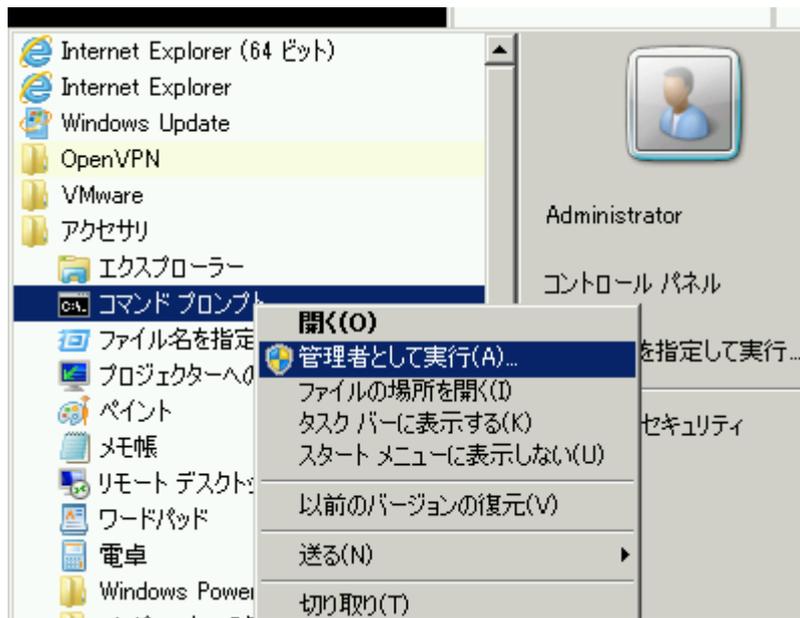
① ファイルの配置

ダウンロードファイル内の ExchangeConnector フォルダを任意の場所にコピーします。

以下ではコピー先が C:\Program Files\ExchangeConnector として記述します。

② コマンドプロンプトを開きます

Windows7/Windows Server 2008 R2 の場合は、下図のようにコマンドプロンプトを「管理者として実行」で開きます。



③ サービス登録

次のコマンドでコネクタサービスを登録します。

コネクタのプログラム名は ExchangeClientService.exe です。

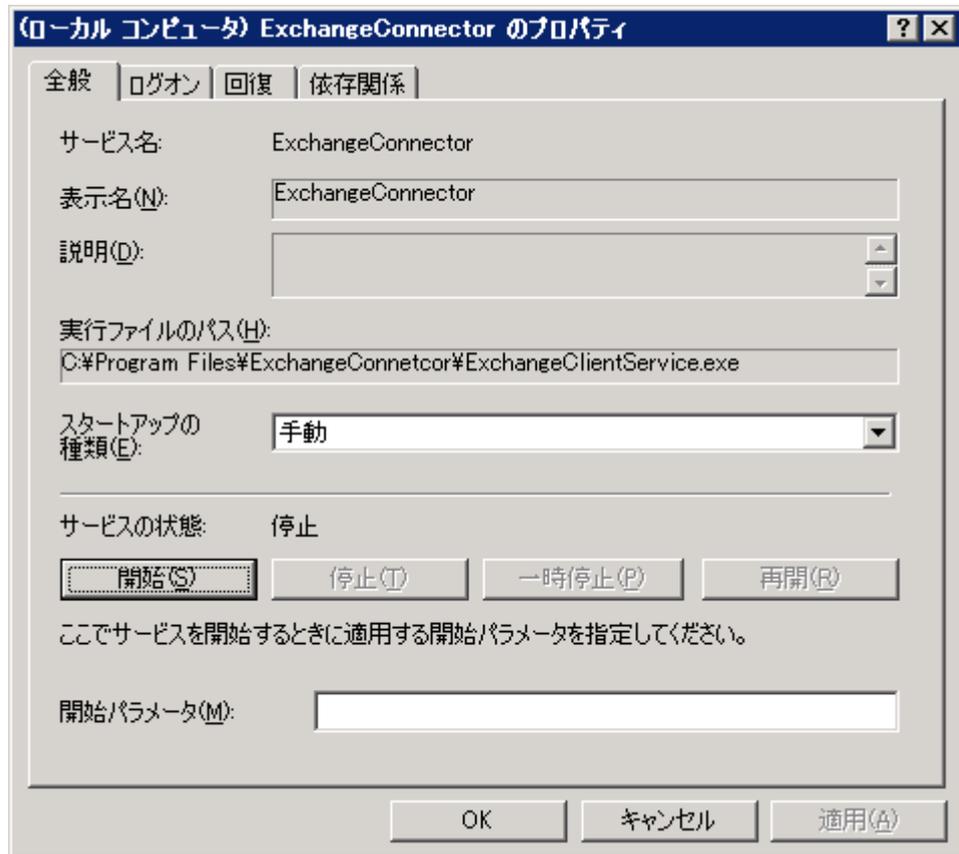
```
sc create ExchangeConnector binpath= "C:¥Program
```

```
Files¥ExchangeConnector¥ExchangeClientService.exe"
```

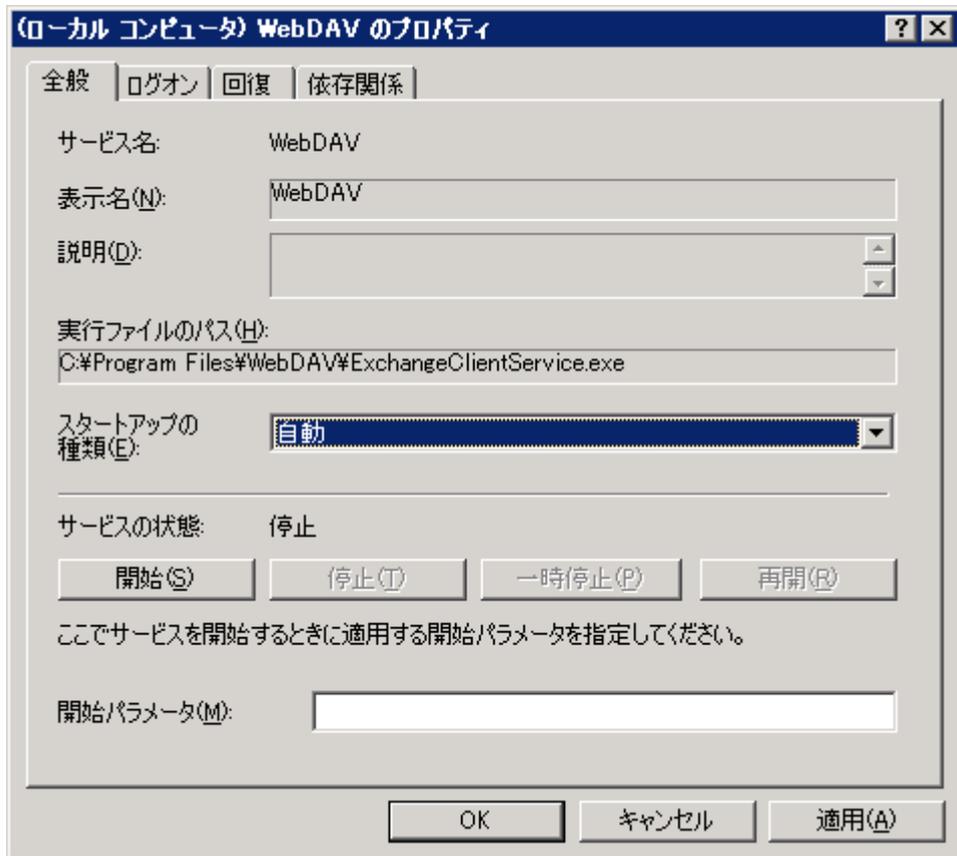
* binpath= の後は空白ですのでご注意ください

④ コネクタサービスを設定します

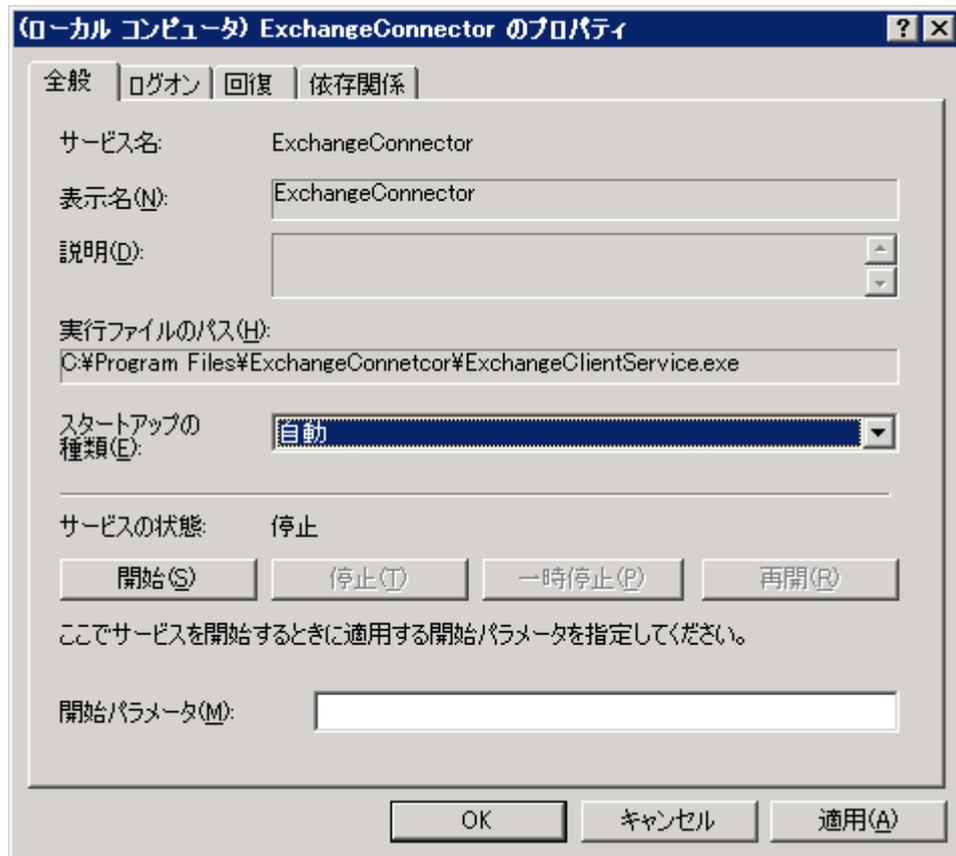
- 1) コントロールパネル→管理ツール→サービスにサービス一覧を表示して WebDAV
をダブルクリックします



- 2) スタートアップの種類を「自動」に指定して「適用」をクリックします



3) ログオンタブを選択します

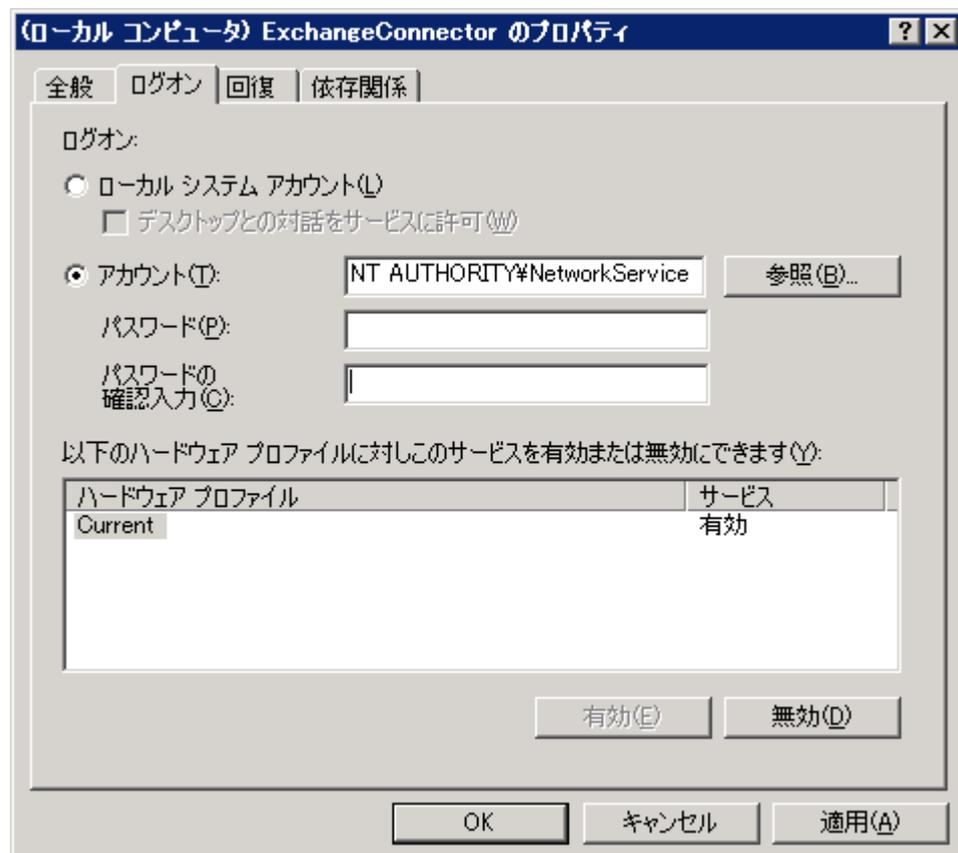


4) 実行アカウントを設定します

アカウントにチェックを付け、それぞれ次の指定を行ったのちに OK をクリックします。

アカウント NT AUTHORITY¥NetworkService

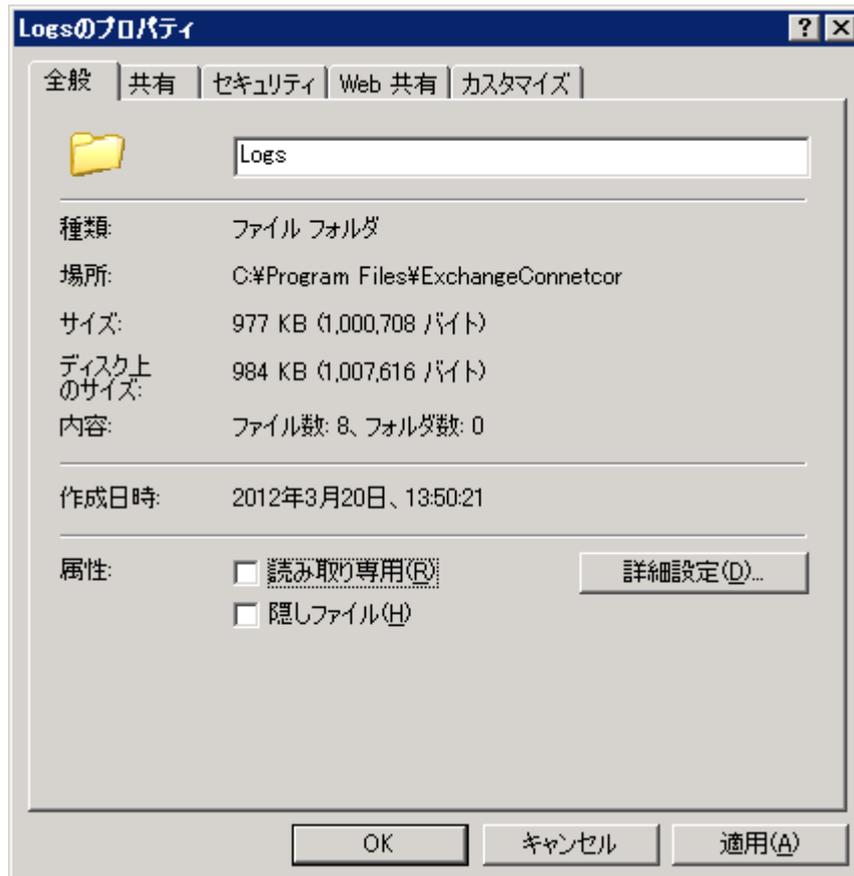
パスワード 空白



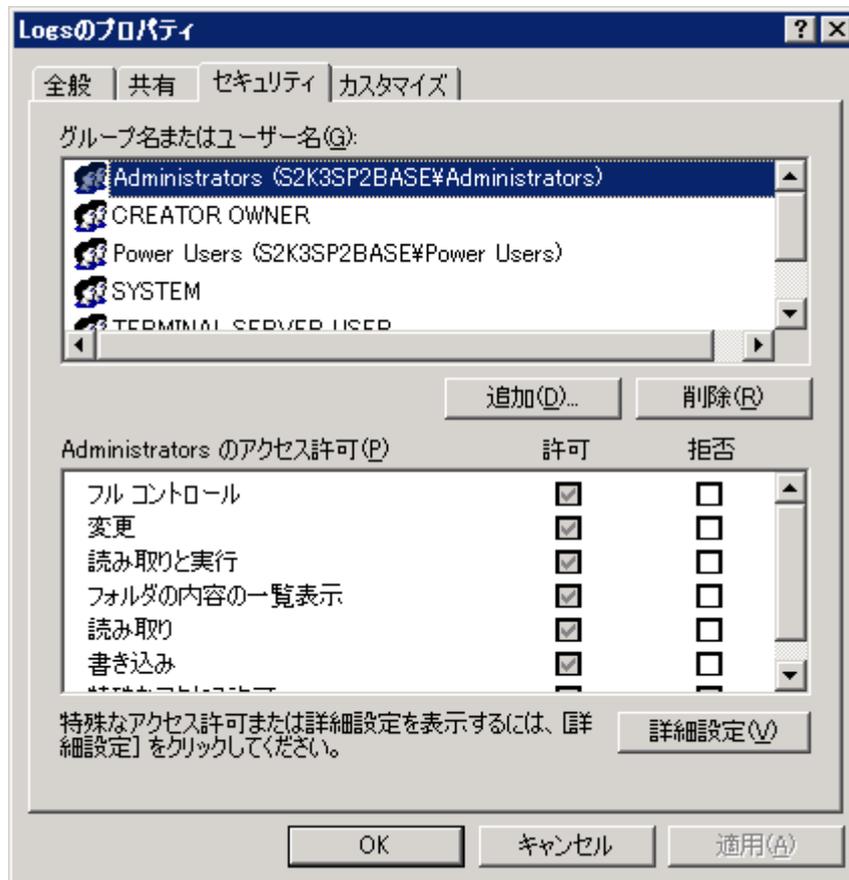
5) ログフォルダの権限設定

エクスプローラにて C:\Program Files\ExchangeConnector\Log を右クリック

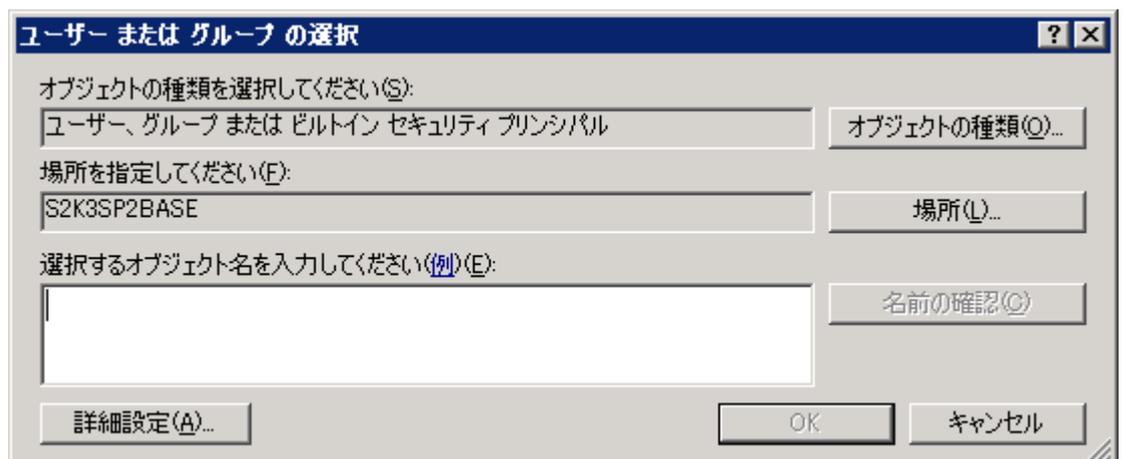
し、プロパティを表示します



6) セキュリティタブを選択します



7) 追加をクリックします



8) 詳細設定をクリックします

ユーザー または グループ の選択 [?] [X]

オブジェクトの種類を選択してください(S):
ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティプリンシパル オブジェクトの種類(O)...

場所を指定してください(E):
S2K3SP2BASE 場所(L)...

共通クエリ

名前(A): 次の文字で始まる []

説明(D): 次の文字で始まる []

無効なアカウント(B)

無期限のパスワード(O)

前回ログイン時からの日数(D): []

列(C)...

今すぐ検索(N)

中止(T)

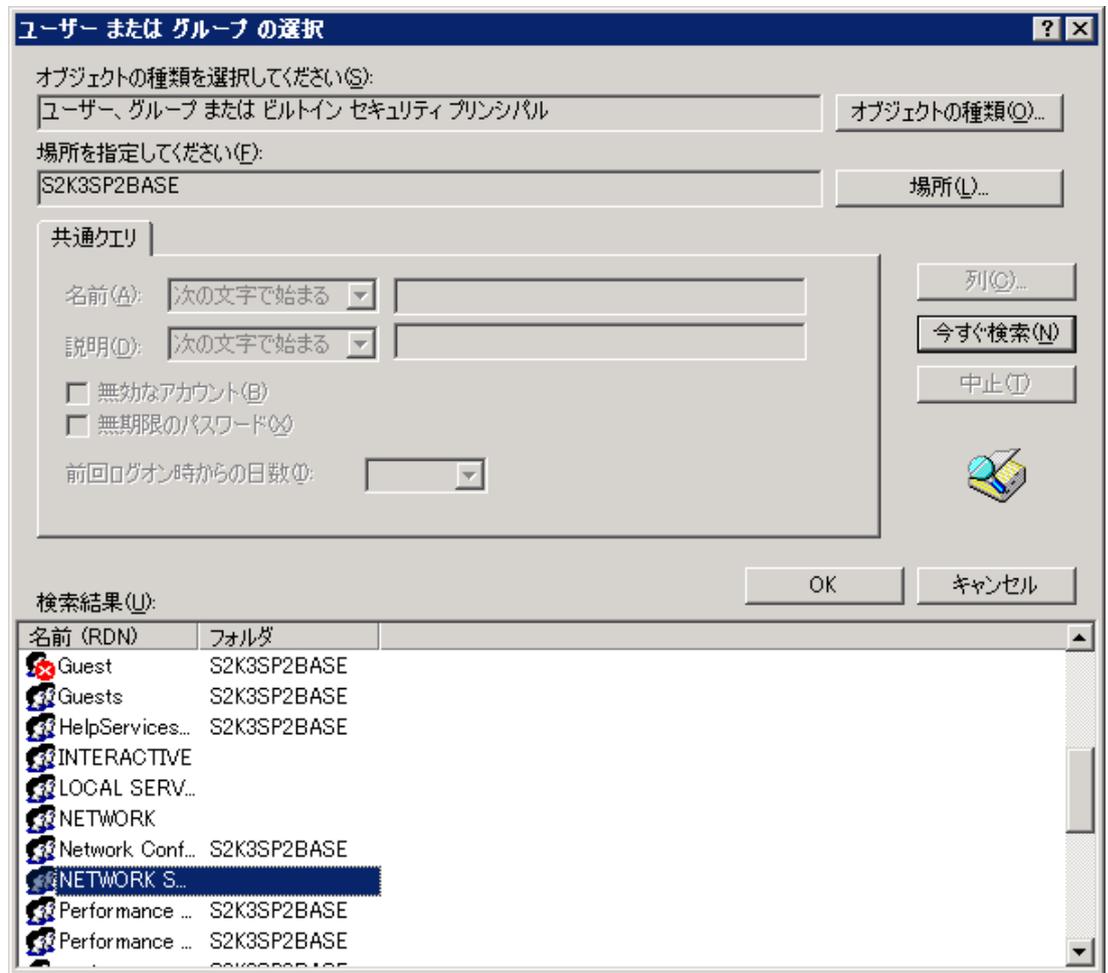


OK キャンセル

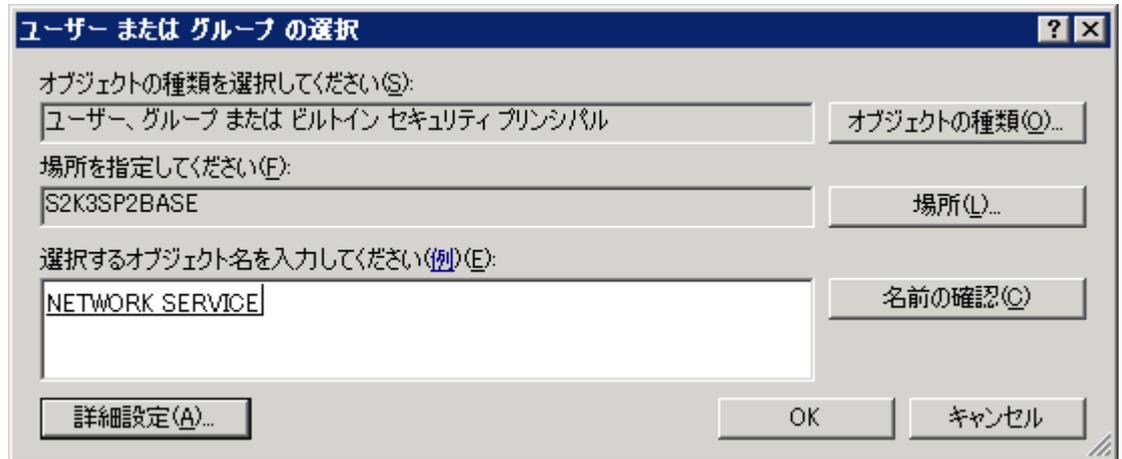
検索結果(L):

名前 (RDN)	フォルダ
----------	------

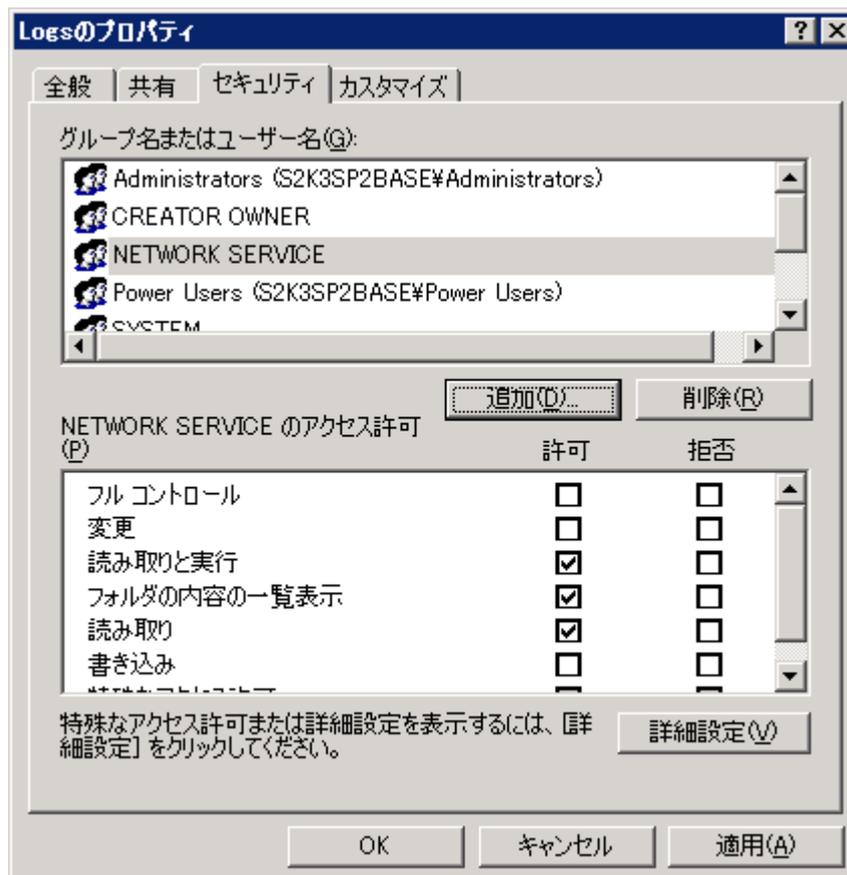
9) 今すぐ検索をクリックします



10) NETWORK SERVICE を選択して OK をクリックします



11) さらに OK をクリックします



12) フルコントロールにチェックを付けて OK をクリックします



13) ExchangeConnector サービスを開始します

Logs フォルダ直下に Exchange.log が作成されていれば設定は成功です。

11 トラブルシューティング

OpenVPN・アダプタ・コネクタ設定時にトラブルが発生した場合は、以下の内容を確認してください。

① OpenVPN が接続できない

- ・手動接続の場合「管理者として実行」しているか？(Windows7/2008R2 の場合)
- ・Proxy 設定は正しいか？(認証は Basic のみ対応)
- ・サービスと手動で重複接続を行っていないか？

⇒両方切断し、どちらか一方で接続を実施してください

② アダプタ・コネクタが起動しない

- ・KDDI Remote Sync あるいは ExchangeConnector フォルダに対して Users で書き込みができるか？(Windows7/2008R2 の場合)

⇒Users のグループに対して書き込み権限を追加してください

③ OpenVPN が接続でき、アダプタが起動しているにもかかわらず、端末から接続す

ると「Gateway への接続に失敗しました」となる

- ・Windows FireWall が有効の場合は Java Platform SE binary を許可しているか？

上記で解決しなかった場合は、以下の情報を準備いただいたうえで法人お客さまセンターまでお問い合わせください。

準備いただく情報

- ・ OpenVPN のログ(C:¥Program Files¥OpenVPN¥log¥client.log)

手動/サービスを問わず接続を行うとログがクリアされるため、接続できない状態で

ログファイルを別に保存するなどの処置が必要です。

- ・ アダプタのログ(C:¥Program Files¥KDDI Remote Sync¥Logs¥*Adapter-nnnn.log)

当日分のログには日付が付きませんが、前日以前のログには .log の後に .YYYY-MM-DD が付加されます。

以上